

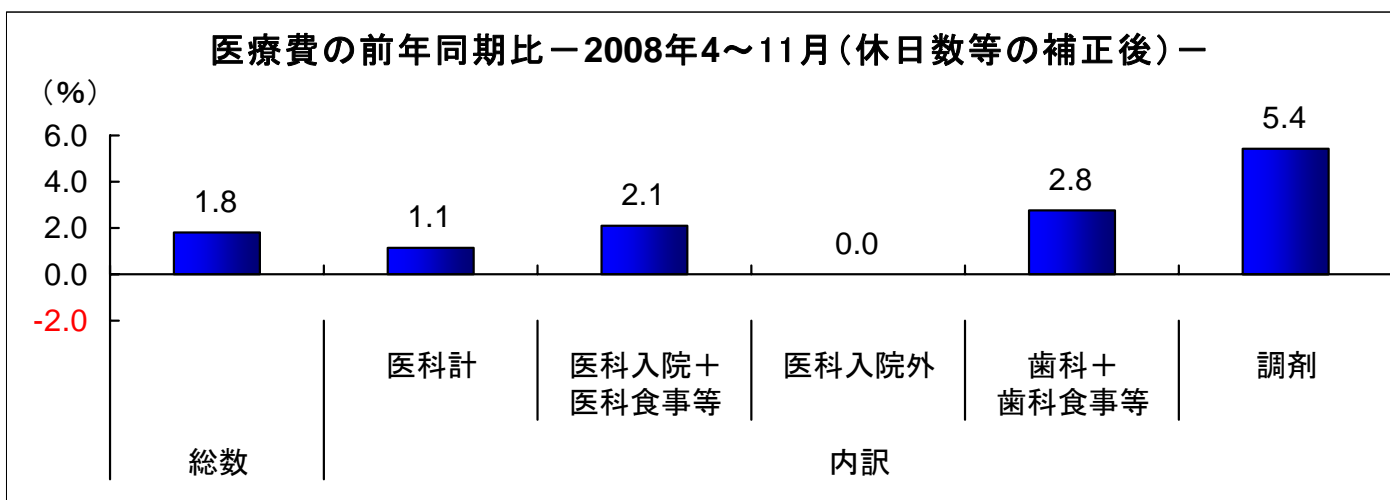
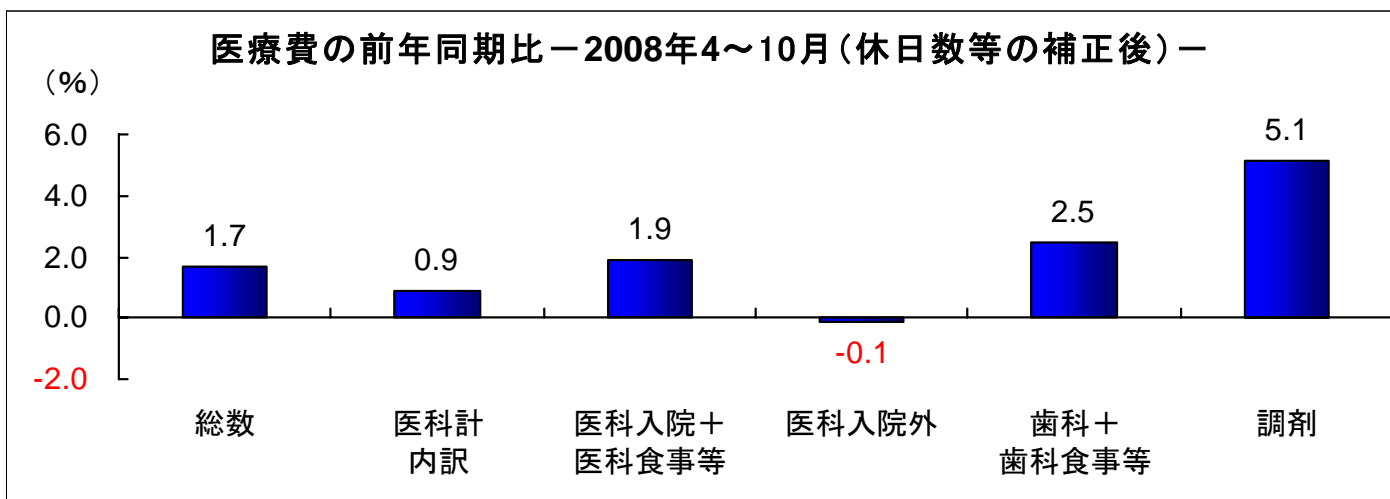
# 厚生労働省「最近の医療費の動向 平成20年11月号」について

定例記者会見

2009年4月8日  
社団法人 日本医師会

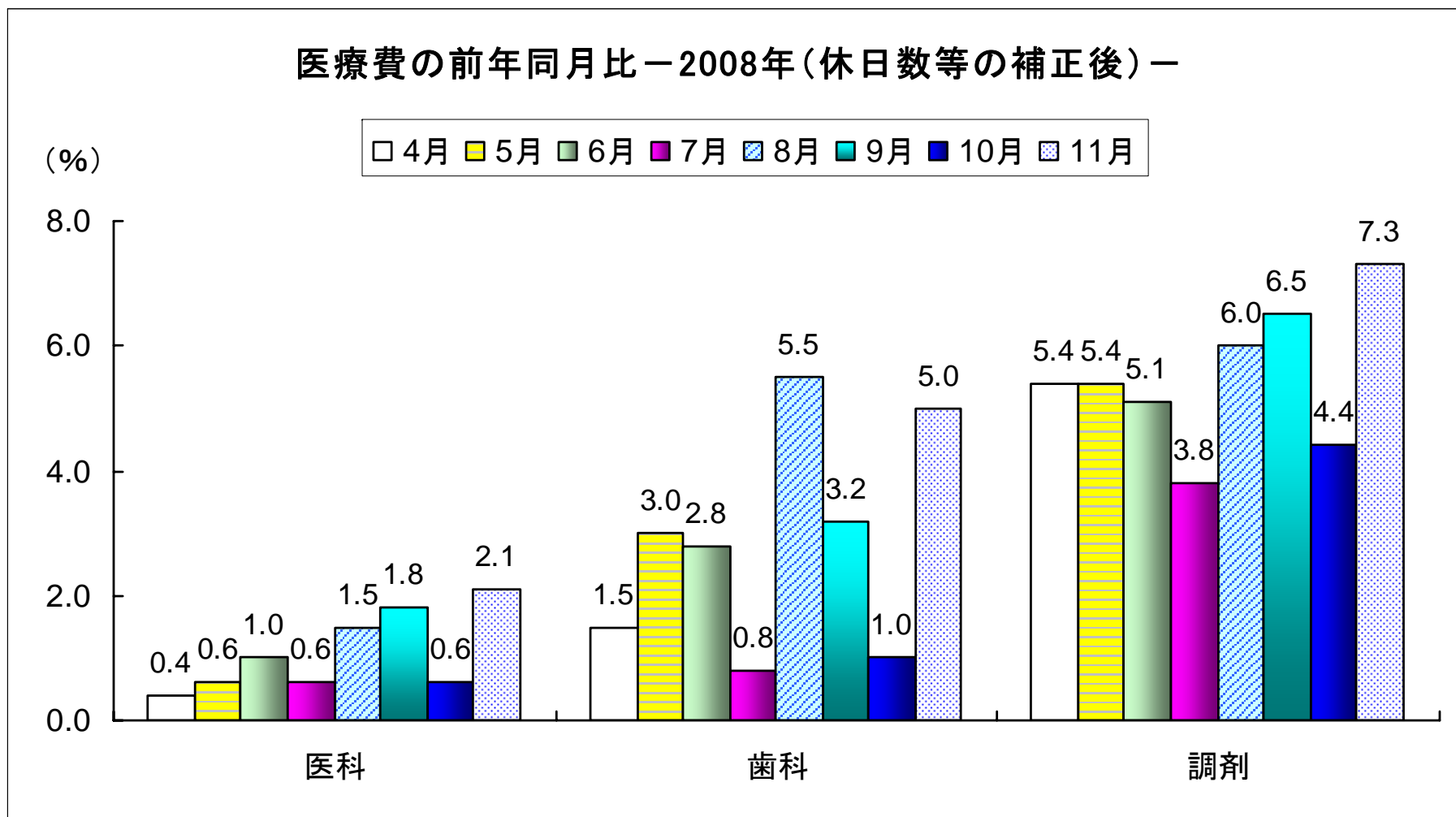
## 種別別医療費

2008年4～11月の医療費の前年同期比は+1.8%であった。歯科は+2.8%。調剤は+5.4%であったが、医科は+1.1%にとどまり、特に医科入院外は±0.0%であった。



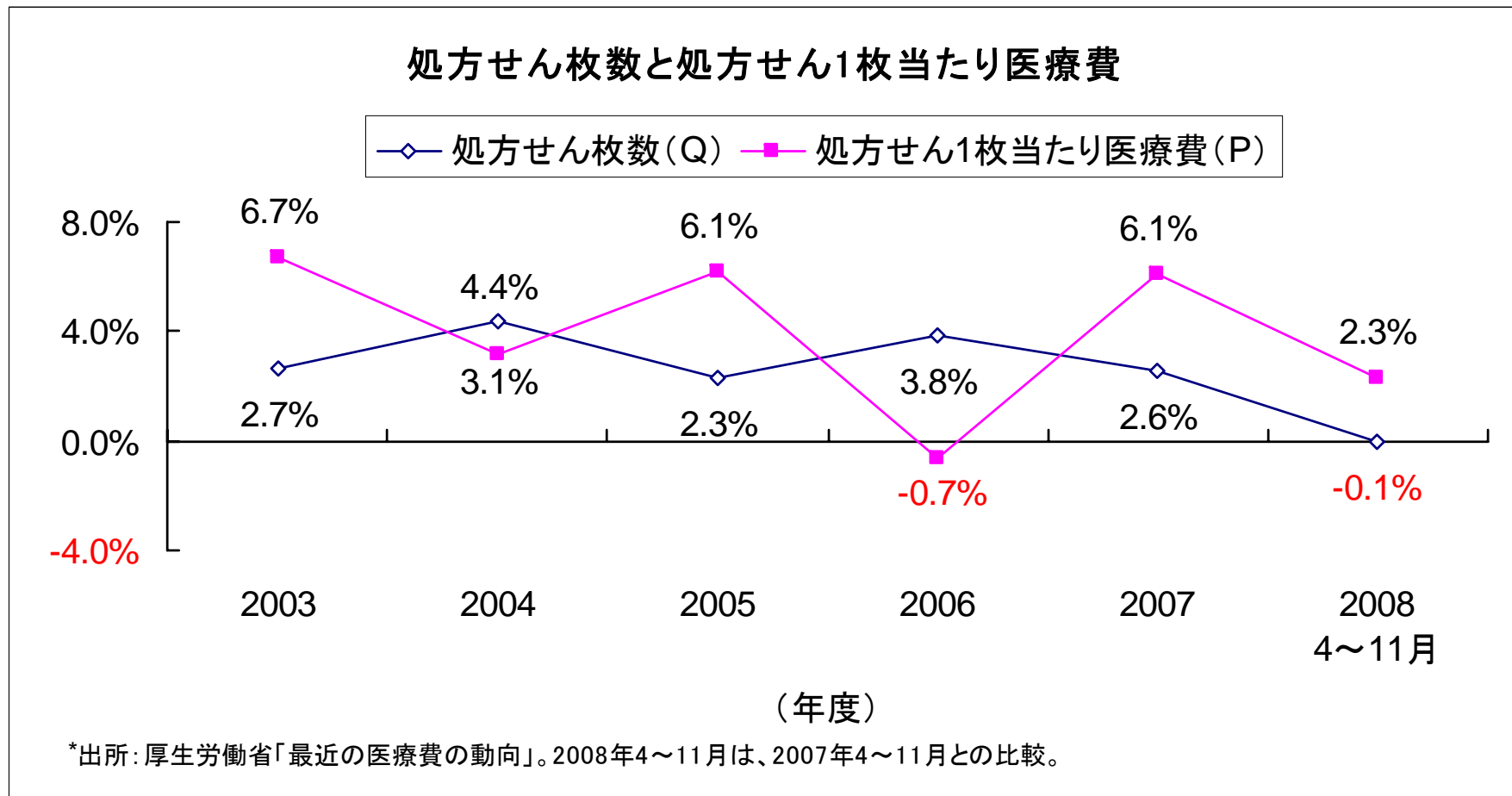
## 種類別医療費(毎月の変化)

前年同月比は、月を追うに連れて拡大している。2008年11月には歯科は+5.0%であり、8月につづいて5%台であった。調剤は+7.3%であり、今年度最高の伸びであった。



## 調剤医療費の増加要因

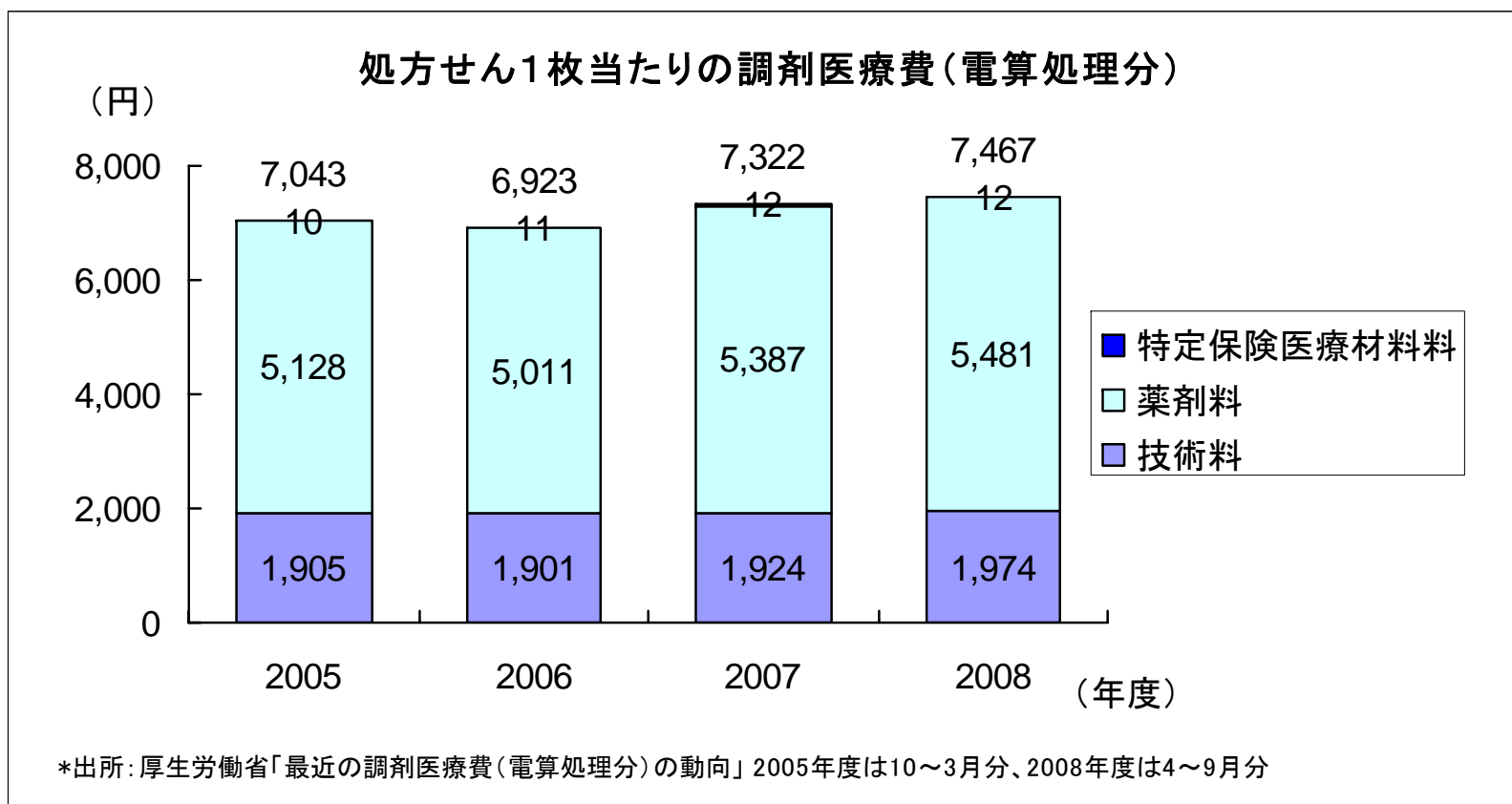
調剤医療費は、「処方せん枚数(数量)×処方せん1枚当たり医療費(単価)」で決まる。2008年4～11月の前年同期比は、処方せん枚数は▲0.1%、処方せん1枚当たり医療費は+2.3%であった。また過去の診療報酬改定がなかった年では、処方せん1枚当たり医療費は6%台の伸びであった。



## 処方せん1枚当たり医療費(単価)の上昇要因

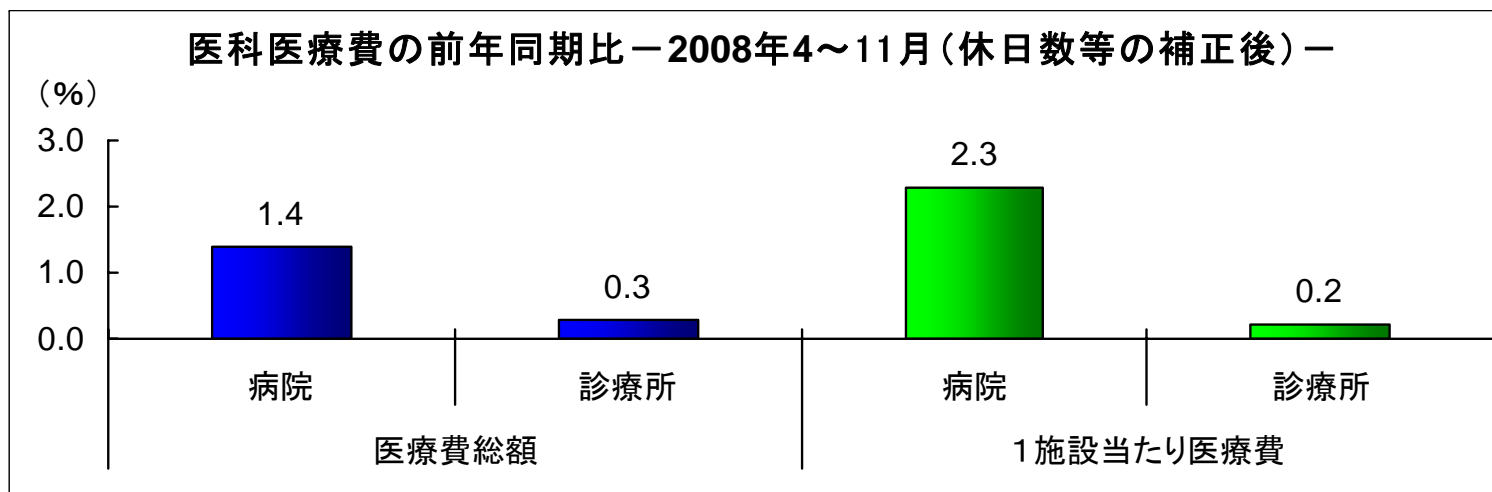
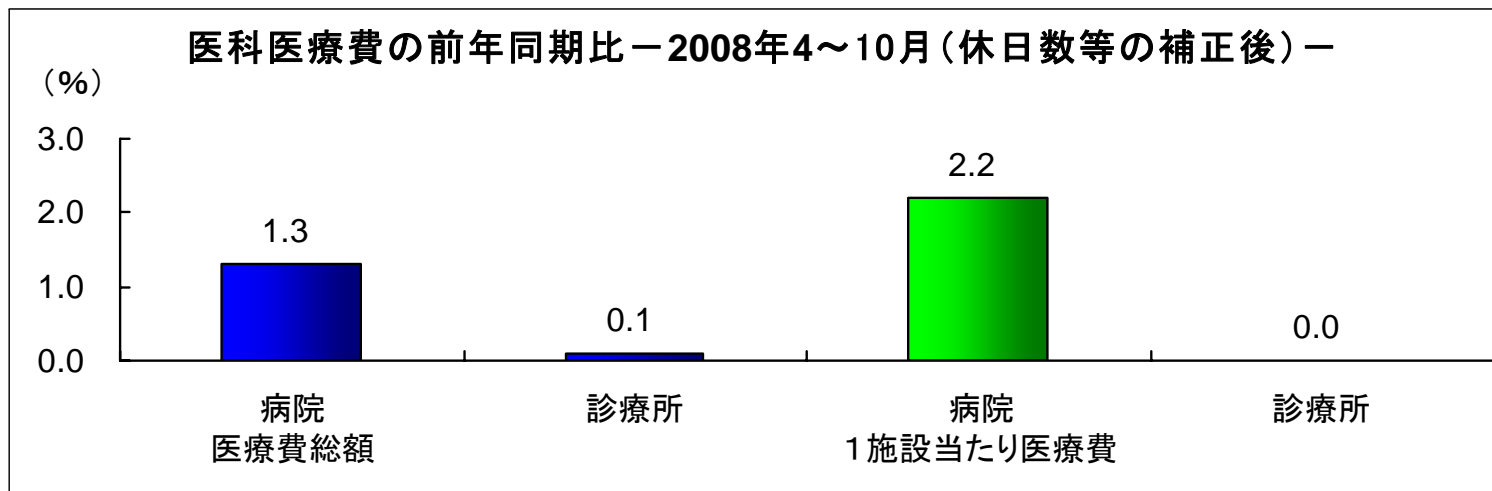
処方せん1枚当たり医療費のうち、技術料が26%、薬剤料が73%である。2008年度(4~9月分)の単価は7,467円で、前年比+145円であった。うち、薬剤料+94円、技術料+50円である。薬価はマイナス改定であったが、単価上昇の6割以上が、薬剤料単価アップによるものであった。

診療報酬改定のなかった2007年度の単価は前年比+399円上昇し、うち技術料+22円、薬剤料+376円であり、単価上昇のほとんどが薬剤料単価アップによるものであった。



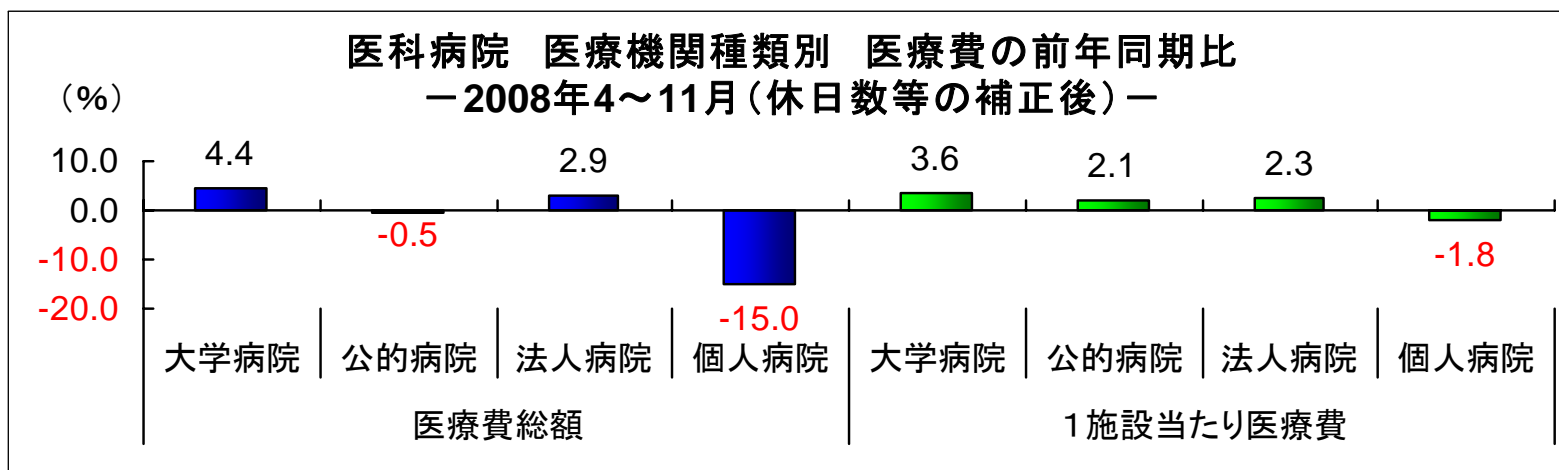
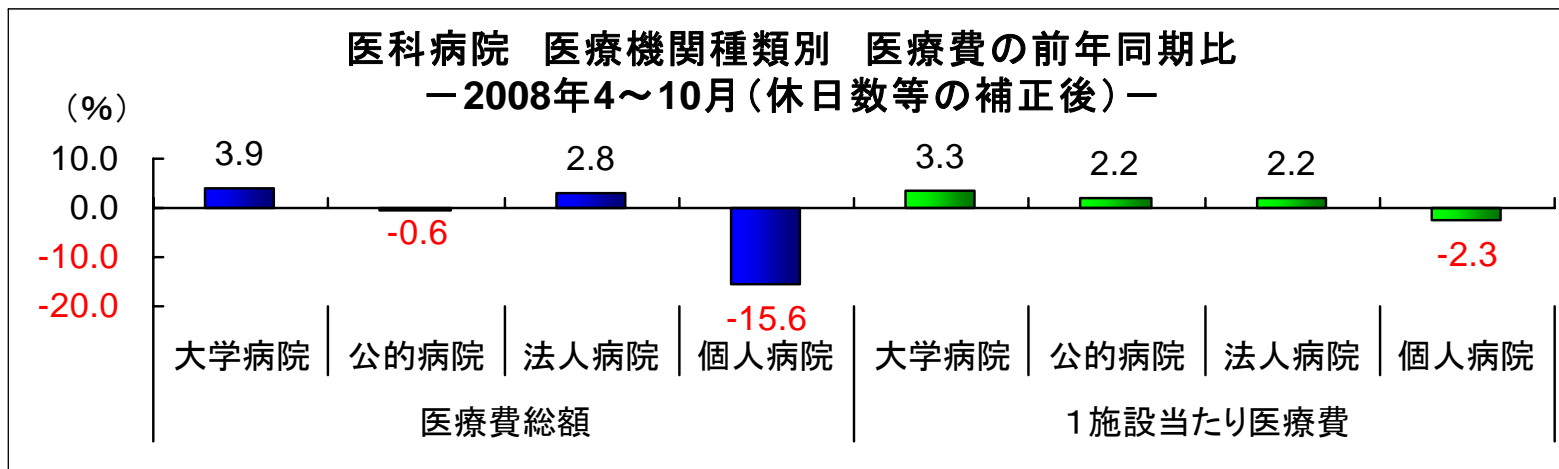
## 病院・診療所別医療費

2008年4～11月の医療費総額の前年同期比は、病院+1.4%、診療所+0.3%であった。1施設当たりでは、病院+2.3%、診療所+0.2%であった。



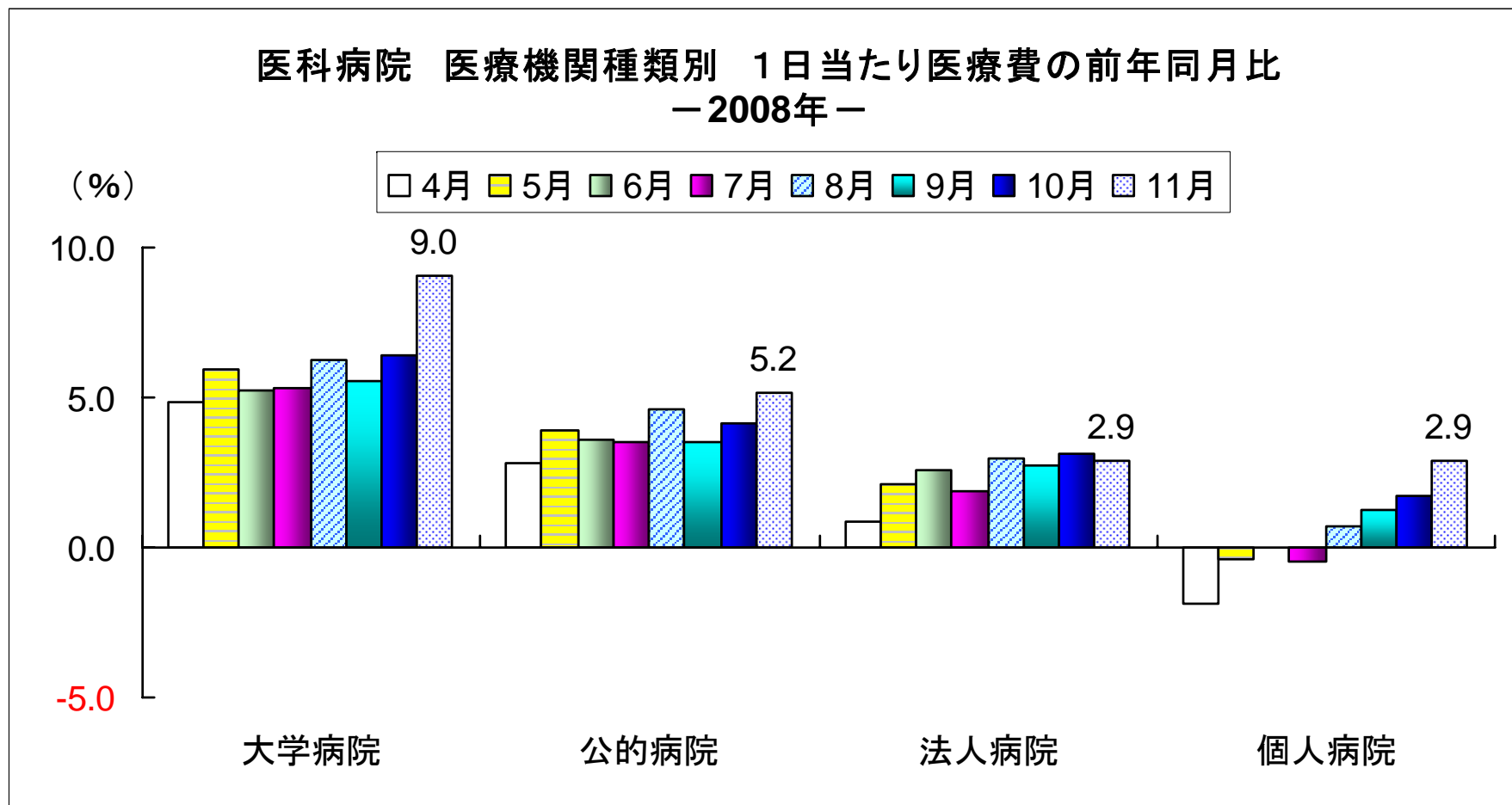
## 病院の医療機関種別医療費

大学病院の前年同期比は4～10月は+3.9%であったが、4～11月には+4.4%になった。1施設当たりでも大学病院は4～10月+3.3%、4～11月+3.6%と拡大しており、大学病院に医療費が集中していることがうかがえる。



病院 医療機関種別 1日当たり医療費(毎月の変化)

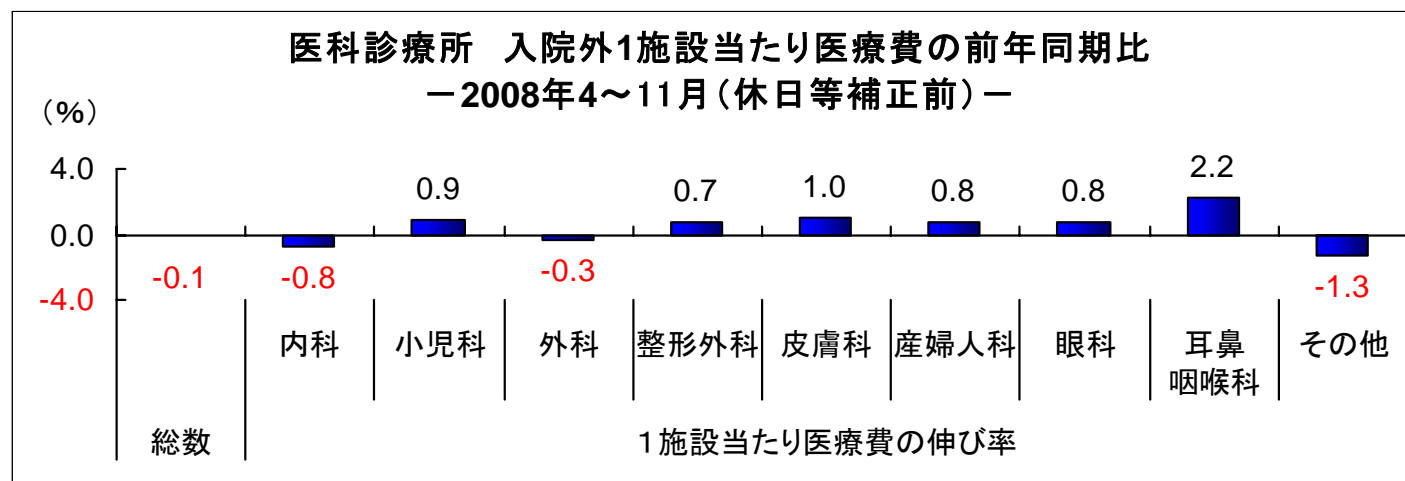
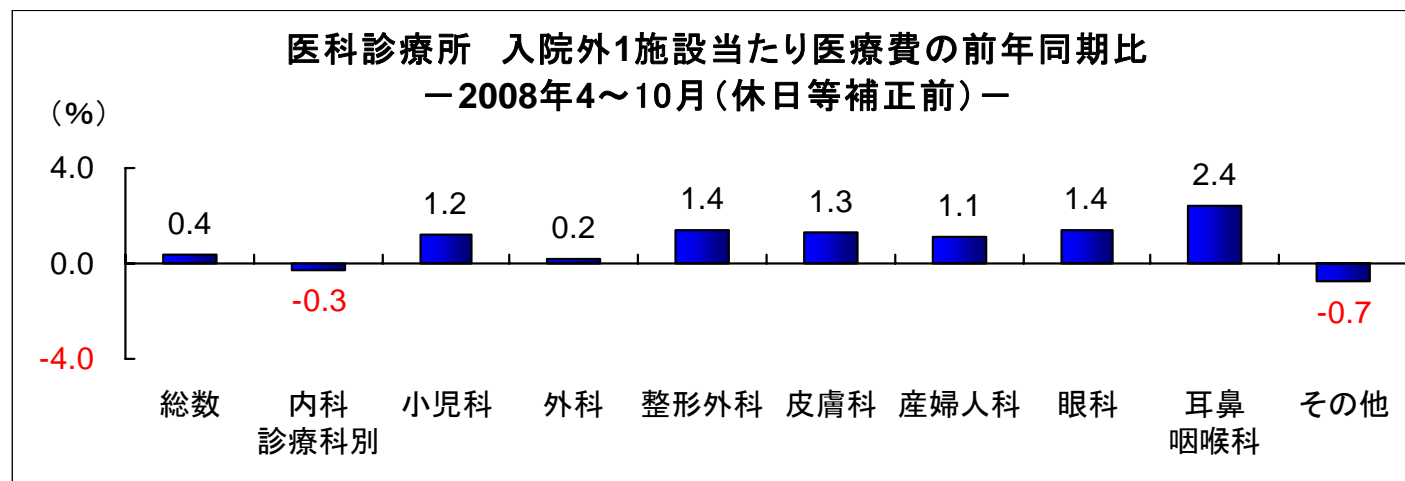
大学病院は、もともと1日当たり医療費が高いが、2008年度はさらに右肩上がりで推移している。これに比べて法人病院では、8月以降頭打ちである。





## 診療所(入院外)医療費

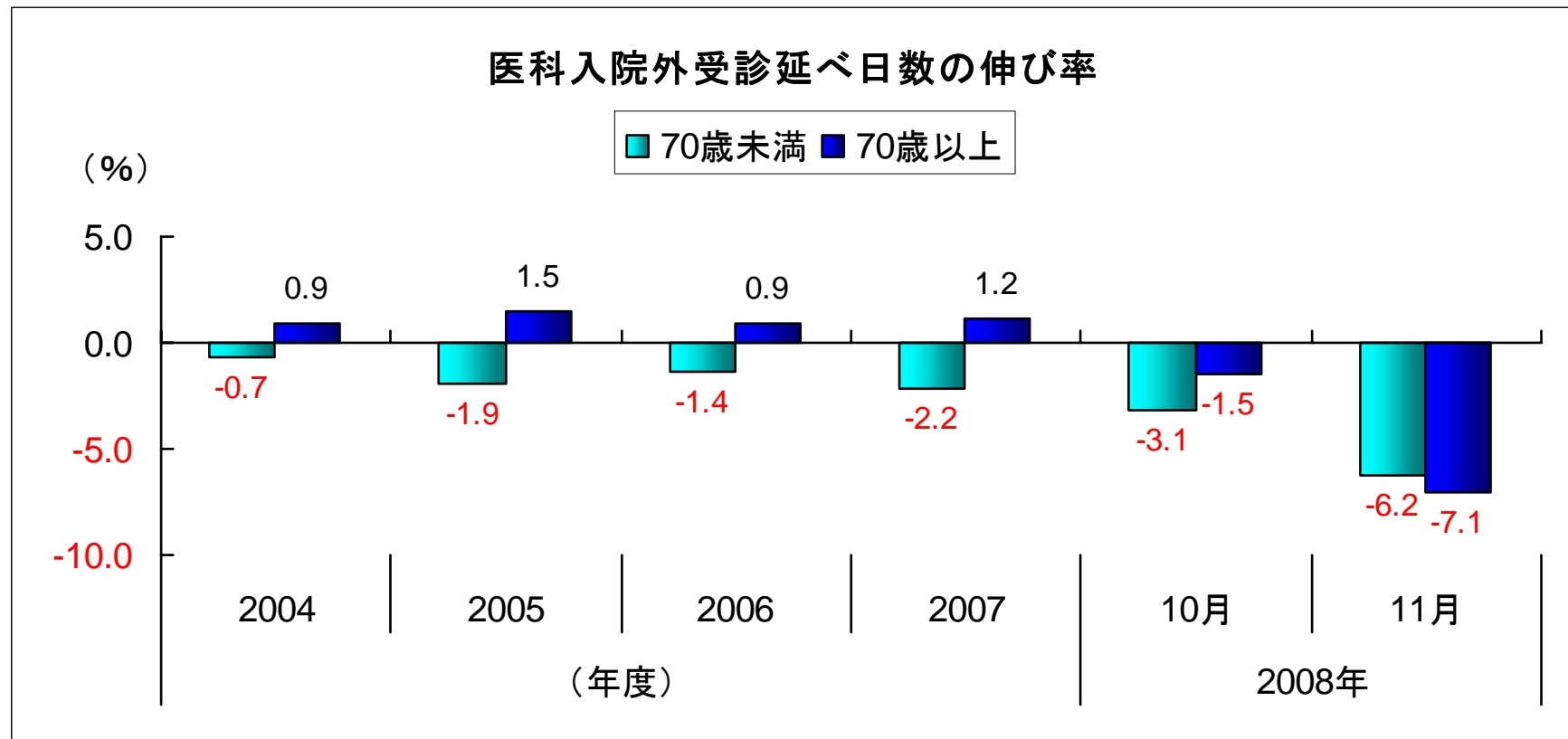
2008年4～10月の前年同期比は、その他を除いて内科がもっとも低かった。2008年4～11月も同様の傾向であった。外来管理加算の影響も少なくないと推察される。



※注)2008年4～11月は、前年同期に比べて土曜日が2日多く、外来日数が少ない。したがって、その分、医療費の前年同期比は減少するが、内科の伸びが際立って低い点は特筆される。

## 医科入院外受診延べ日数

2008年11月は前年に比べて、日曜日が1日、土曜日が2日多く、平日が少ない。そのため前年同月との比較はしづらいが、高齢者(70歳以上)の受診日数が70歳未満よりも減少した点が懸念される。



## 1人当たり医療費の伸び

休日等の補正を行っていないベースであるが、2008年4～11月の高齢者(70歳以上)の医療費は、前年同期比で▲0.3%であり、70歳未満よりも低かった。

